

②

新潟工科大学 新潟工科大学 新潟工科大学 シラバス

科目名		建築設計演習Ⅰ				
担当教員		野口 信彦		実務授業の有無	○	
対象学科		建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		今まで学習してきた建築計画・設計の、コンセプトの考え方、デザインテクニックなどの集大成としてのコンペ作品の制作をする。 1. テーマににもとづいたイメージの考え方と作成の手順を説明する。 2. 条件と規制に則した設計の進め方の再認識させる。 3. 説明→課題演習→チェックフィードバックを繰り返すことで作品精度を上げるする。 4. 最終的にコンペ作品をを作成し、プレゼンを行う。				
学習目標（到達目標）		前期で設計の基礎的知識を学びました。後期ははじめて自分の頭で考えた空間を創り上げます。ここでは実際の競技設計に応募し、アイデアを形にまとめることを学びます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計（学芸出版社）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	建築コンペとは ①課題を分析しコンセプトを検討し、具体的な形を提案 ②一連のコンペのプロセスの説明			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：プロセスの理解ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
2	課題の分析 ①実際のコンペの課題分析と出題の趣旨読み取り			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：プロセスの理解ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
	情報収集 ①インターネットなどあらゆる媒体から情報を集め問題点を探る			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
3	方向性の検討 ①条件整理と自分の設計の方向性を定める。			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
4	コンセプトの作成 ①サブタイトルの作成 ・コンセプトを明快にするためにサブタイトルを付ける。 ②テーマの整理 ・コンセプトを明快にするためテーマを絞り込む ③コンセプトの発表			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：コンセプトとテーマの設定ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
5	エスキース ①ひらめきの記録 ・空間イメージを形にする方法を学ぶ ②イメージの具体化 ・思いついたことをスケッチに残す			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
6	図面の作成 ①エスキースを基に図面を作成する			各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができています 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
7	完成図の発表 ①完成した作品のプレゼンテーション			完成した作品をみんなの前でプレゼンテーションする。		
	・校内発表会			・相手に伝える説明力も必要です		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題の期限内提出を前提とし、コンセプトの優劣、図面表現、プレゼンテーションや平常点を含め総合的に判断し評価します。				2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。テーマや、コンセプトについては必ず、担当教務との話し合いで決定させ、情報密度を上げて精度を高める。個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。。課題の評価はプレゼンを聴いた人たちの評価も加味する。		
コンセプト40%、図面表現力40%、プレゼンテーション10%、授業態度 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		設計事務所にて設計業務に11年				

②

新潟工科大学 新潟工科大学 新潟工科大学 シラバス

科目名	建築設計演習Ⅱ				
担当教員	廣田 邦昭		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	PowerPointでプレゼンテーションに必要な操作を理解したうえで、様々なツールの作成方法を学ぶ 実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. ソフトの機能を中心に描き方、表現方法を解説・演習する。 3. 条件に則したPowerPointの機能と応用を理解する。 4. 最終的には、検定対策授業としを3級取得をめざす				
学習目標 (到達目標)	卒業制作に向けて、プレゼン技法等を学ぶ				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料	伝わるデザイン（ネット上）を利用し、見せるデザインを学ぶ 初めて学ぶ 建築コンペ・卒業設計（学芸出版）				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	〈目標〉 ①コンペ、卒業制作等のプレゼン技法としてのレイアウト、 ②プレゼン発表時のスライドの構成上の基本技法 ③プレゼン発表ツールの作り方 （実際にコンペ応募作品を制作）		方法：コンペ応募作品制作を通して、卒業制作に向けての用紙等のレイアウト、フォント、構成 等の基本的な技法を学び、コンペ応募作品のボード、プレゼン発表のスライド制作に生かす。 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
2	完成図面のレイアウト ①レイアウトのポイント ②色の活用について ③構成のバリエーションについて ④レイアウトのポイントについて理解する手順 ⑤作品のレイアウトを行う。		方法：コンペ応募作品制作を通して、卒業制作に向けての用紙等のレイアウト、フォント、構成 等の基本的な技法を学び、コンペ応募作品のボード、プレゼン発表のスライド制作に生かす。 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習		
3	デジタルプレゼンテーション資料の作成 ①PowerPointを用いた効果的なプレゼン資料の作成する		方法：教科書、プリント等を使って説明し、作図の演習。課題の進捗状況を確認の上、フィードバック ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習		
4	プレゼンテーション 講評		方法：PowerPoint資料を使い、自身の作品のプレゼンテーションを行う。 準備学習：プレゼン練習と作品の振り返り		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題作品の評価点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題80%、授業態度20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			PowerPointを使ってコンペ資料を作成するため、アプリケーションスキルをいかし、操作に慣れた段階で後半には応用力をつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。大きなテーマの課題という性格上、スケジュールと、クオリティ管理を重視し、進捗状況を常に把握する。		
実務経験教員の経歴 店舗設計・現場管理に41年従事					